出場チーム顧問　様

愛媛県中学校体育連盟
バレーボール専門部長　樋 野　慎 平

第６０回四国中学校総合体育大会　バレーボール競技
大会参加に関しての連絡

四国総体への出場おめでとうございます。コロナ禍での開催となりますが、大会運営がスムーズに、そして安全に行えますよう御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

１　入館時刻について
『③競技日程』に各試合の受付開始時刻を記載しています。**受付開始時刻が、入館時刻**となります。それより早くは入館できませんのでご注意ください。なお、受付は、１階正面玄関１か所となっています。選手とチームスタッフが揃って受付を完了してください。応援の保護者は、チームとは別の入館でも構いませんが、受付開始時刻は守ってください。

２　新型コロナウイルス感染症対策及び、入場が許可されるチーム関係者や応援関係者の人数については、詳細が決定次第**愛媛県中体連のホームページに掲載されます**。

３　『競技運営上の確認事項』『応援・会場使用上の注意事項』『審判上の確認事項』などを熟読の上、大会運営に支障のないようにお願いします。

４　申込書作成用のエクセルデータを樋野までメールで送信願います。
⑴　送付先　樋野メールアドレス　hino5708@yah00.co.jp
⑵　プログラムの誤字・脱字を防ぐためです。
⑶　７月２９日（金）に、抽選会及びプログラム編成がありますので、メールの送信は、**７月２７日（水）**までにお願いします。

５　冷房の費用について
⑴　１チーム**８，０００円**の負担となります。
⑵　同意されないチームがある場合は冷房を入れることができません。**同意されない場合は**、申込書を樋野に送信していただくときに、その旨をお知らせください。

６　記念シャツの販売について（クレーマージャパン・ファイテン・コントリビュート）
※　記念シャツ販売の案内は、ホームページには掲載されません。直接業者に申し込んでください。問い合わせも業者へお願いします。

全ての連絡は、愛媛県中体連ＨＰ（http://ehimejpa.com/）「四国中学校体育連盟」に掲載されます。随時ＨＰを御確認ください。

この件に関する問い合わせ先
愛媛県中学校体育連盟
バレーボール専門部長　樋 野　慎 平
携帯：０９０－３１８５－３７２６　　メールアドレス：hino5708@yahoo.co.jp

≪　①　競技運営上の確認事項　≫

１　競技は、２０２２年度(公財)日本バレーボール協会６人制競技規則及び、２０２２年度(公財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部としての取り扱いに準ずる。
⑴　ネットの高さは、男子２ｍ３０ｃｍ、女子２ｍ１５ｃｍとする。
⑵　大会使用球は、(公財)日本バレーボール協会検定４号球、人工皮革カラーボール（男子：ミカサＶ４００Ｗ、女子：モルテンＶ４Ｍ５０００）とする。
⑶　リベロプレーヤーは２名以内とする。(添付資料を参照)
⑷　今大会は、「給水のためのタイムアウト」を採用する。(添付資料を参照)
　それに伴い、熱中症対策としての団扇の使用を認める。添付資料を確認し、使用についての条件を守ること。
⑸　サブスティチューションにおいてはナンバーパドルを使用しない。
⑹　全ての試合ワンボールシステムで実施する。
⑺　新型コロナウィルス感染症対策として、セット間のチェンジコートを行わない。トーナメント表において、左側のチームをＡコート（副審から見て左側）とする。プロトコールのコイントスにおいては「サービスを打つ権利」と「サービスを受ける権利」のいずれかを選択することとなる。

２　トーナメント戦方式とし、すべて３セットマッチとする。(ラリーポイント制　２５点)

３　３位決定戦は行わない。

４　競技日程及び方法は、プログラム掲載の通りとする。

５　本大会の競技運営は、全試合「時間設定」で行う。設定時刻は、**試合開始時刻**とする。但し、前の試合が長くなった場合、次の試合開始時刻は５分の合同練習後、プロトコールに入る。早く終了した場合は、設定時間の１６分前から合同練習に入る。
※　決勝戦については、試合開始時刻を別途連絡する。

６　合同練習におけるボールの使用はパス程度とする。

７　合同練習までの試合間の練習は、隣のコートにボールが飛び込まないような練習とする。(ヒットするレシーブなどはできるが、ネットは使用できない。)
※　決勝戦におけるコートの使用に関しては、別途連絡する。

８　試合コート及びフロアーでのボール使用は、試合間、合同練習、公式練習、セット間（フリーゾーン後方のみ）以外は認めない。また、ロビーなどでのボール使用は禁止するものとし、他は会場使用規定に従う。

９　公式練習は６分間とする。合同で公式練習をしない場合は、各チーム３分間とする。

10　公式練習において、登録されていない選手が、防球フェンス的役割で他コートへのボール侵入を防ぐためにコート際へ立つことができる。ただし、監督やコーチへの球渡し（球出し）やエントリー選手とのパス相手は厳禁とする。(平成３０年度より)

11　試合中、ベンチ及びフロアーには、登録された監督・コーチ・マネージャー及び選手以外は入ることができない。監督は当該校の校長・教員・部活動指導員であり、引率者としての責任を負う。マネージャーは生徒に限る。なお、コーチが外部指導者（コーチ）の場合は、当該校の校長が認めた者とし、外部指導者（コーチ）証を見えるように携帯すること。
※　外部指導者（コーチ）章がない場合は、ベンチに入ることができない。

12　監督・コーチ・マネージャーは、規定のマークを左胸部につけること。
⑴　規定のマークがない場合は、ベンチに入れない。
⑵　コーチが外部指導者の場合は、規定のコーチ章と外部指導者章が必要になる。
⑶　チームキャプテンは、胸のナンバーの下に規定のマークをつけること。

13　監督・コーチは統一された服装でベンチに入ること。（短パン・ランニングは不可）
※　服装が統一されていない場合は、監督かコーチのみしかベンチに残れない。その場合、コーチが外部指導者の場合は、監督がベンチに残ることになる。また、マネージャーは、選手との区別のつく服装であること。

14　監督・コーチのベンチマナーについては、十分留意すること。

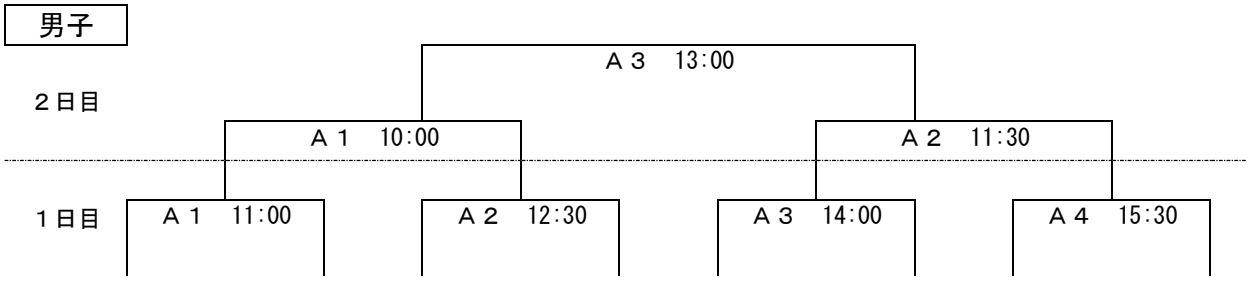
15　ユニフォームについては、規定を遵守すること。（添付資料を参照）

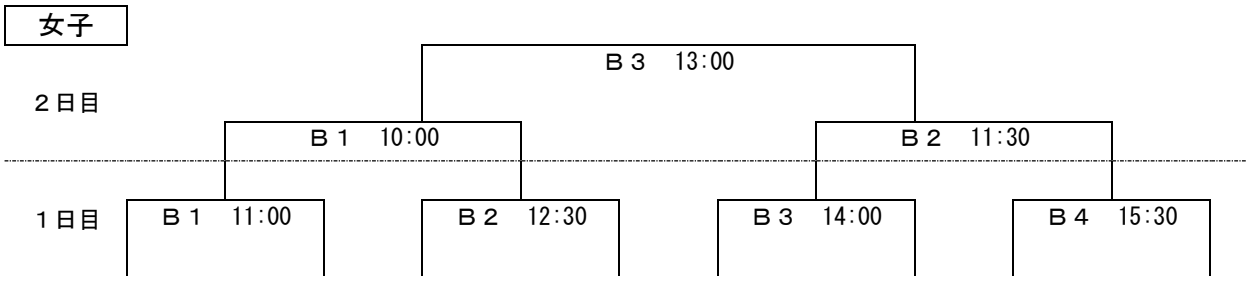
16　エントリーの変更・訂正は、代表者会議終了時に競技委員長に提出する。これ以外の変更・訂正は、いかなる場合も一切認めない。

17　表彰について
⑴　３位のチームは、試合終了後コートにおいて表彰する。
⑵　優勝・準優勝のチームは、全試合終了後表彰式を行う。

18　その他
⑴　試合中、ベンチには、競技に必要ない物を持ち込むことはできない。（マスコット等）
⑵　ベンチやウォーム・アップゾーンでは、マスクを着用すること。
⑶　応援のマナーや、会場使用に関するマナーを守ること。
⑷　コートオフィシャル（「ラインジャッジ」及び「得点係」）は、生徒役員が行う。
⑸　四国総体新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン及び、別紙新型コロナウイルス感染対策の内容を遵守すること。
⑹　競技運営上の問題については、大会本部で合議し、最終判断する。

≪　②　組み合わせ　≫





≪　③　競技日程　≫

【８月６日（土）】

第１試合のチームのみ

９：００	受付開始
９：３０	代表者会議
１０：００～１０：４０	コートを使用してフリーの練習
１１：００	第１試合開始

第２試合のチームのみ

１０：００	受付開始
１０：３０	代表者会議
１１：００	サブアリーナで練習可
	第１試合が終わり次第コートを使用して練習
１２：３０	第２試合開始

第３試合のチームのみ

１１：３０	受付開始
１２：００	代表者会議
１２：３０	サブアリーナで練習可
	第２試合が終わり次第コートを使用して練習
１４：００	第３試合開始

第４試合のチームのみ

１３：００	受付開始
１３：３０	代表者会議
１４：００	サブアリーナで練習可
	第３試合が終わり次第コートを使用して練習
１５：３０	第４試合開始

【８月７日（日）】

第１試合のチームのみ

８：３０	受付開始
９：００～９：４０	コートを使用してフリーの練習
１０：００	第１試合開始（終了後３位コート表彰）

第２試合のチームのみ

９：００	受付開始
１０：００	サブアリーナで練習可
	第１試合が終わり次第コートを使用して練習
１１：３０	第２試合開始（終了後３位コート表彰）

決勝戦（進行次第で変更あり）

	コート使用時間は別途連絡
１３：００	試合開始

男女の決勝戦終了後、優勝・準優勝のみ表彰式

≪　④　応援・会場使用上の注意事項　≫

◎　今後も使用する施設ですので、**各校で事前指導を十分お願いします**。

◎　**保護者への連絡・徹底も必ずお願いします。**

◎　**ベンチスタッフ以外は、応援席などからサイドコーチをすることはできません**。

◎　大会運営の妨げになると判断される場合は、会場より退場していただく場合もあります。

≪応援について≫

1　声を出しての応援は禁止する。

2　マナーを守って応援すること。

3　応援時のメガホン・ペットボトル・太鼓等の使用は認める。ただし、音量や応援の方法が試合運営に支障をきたすと判断した場合は、**試合途中であっても使用中止にする場合がある**。なお、**観覧席の手すり等はたたかない**こと。

≪会場使用について≫

1　密を避けるため、**間隔を空けて椅子を使用する**こと。

2　２階応援席では、**全員マスクを着用**すること。

3　館内の通路や観覧席では、ボールの使用やアップはできない。

4　ダッシュやボールを使用してのアップは、サブアリーナで行うこと。

5　ベンチでの給水はできるが、それ以外の飲食は２階観覧席で行うこと。

6　館内で飲食する場合は、間隔を空けて**黙食を徹底する**こと。

7　使用した応援席や付近の手すりなどは、**各チーム責任を持って消毒する**こと。

※　消毒液は、自チームで準備する。

8　試合終了後は、できるだけ早く体育館から退出すること。

9　**上靴と下靴の区別をつける**こと。

10　下靴は各自の袋に入れて観覧席へ持っていくこと。

11　傘を使用する場合も、袋に入れ、館内が濡れないようにして観覧席に持っていくこと。

12　更衣室は更衣のみに使用し、荷物は観覧席で保管すること。

※　トイレや更衣室など、目立たない場所で着替えをすること。

13　**トイレは、必ずスリッパに履き替える**こと。

14　ごみは各チームで責任をもって持ち帰ること。

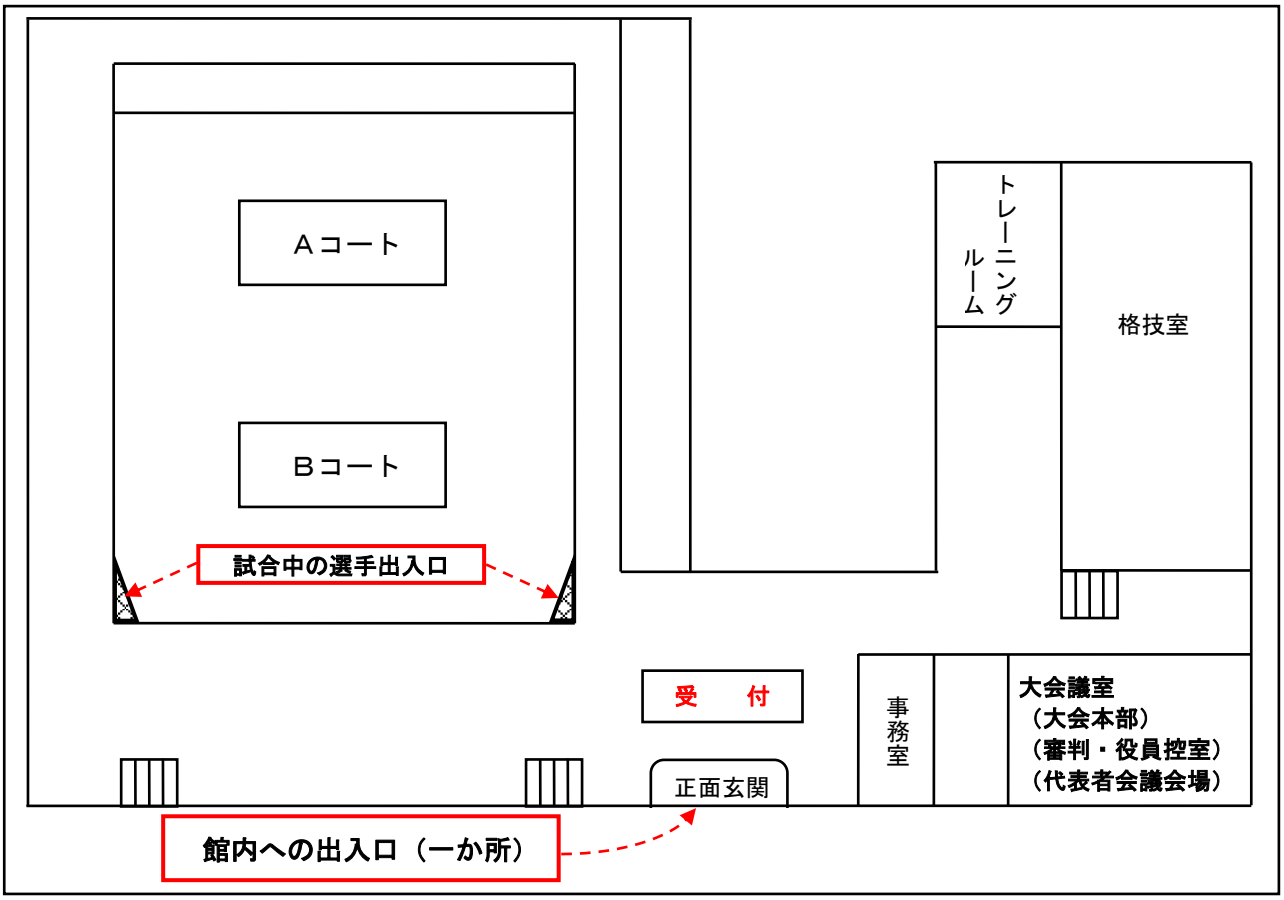
15　館内の**電源は使用しないこと**。（ビデオやポット、携帯電話など）

16　プレーの妨げになるため、写真やビデオの撮影時は**フラッシュを使用しないこと**。

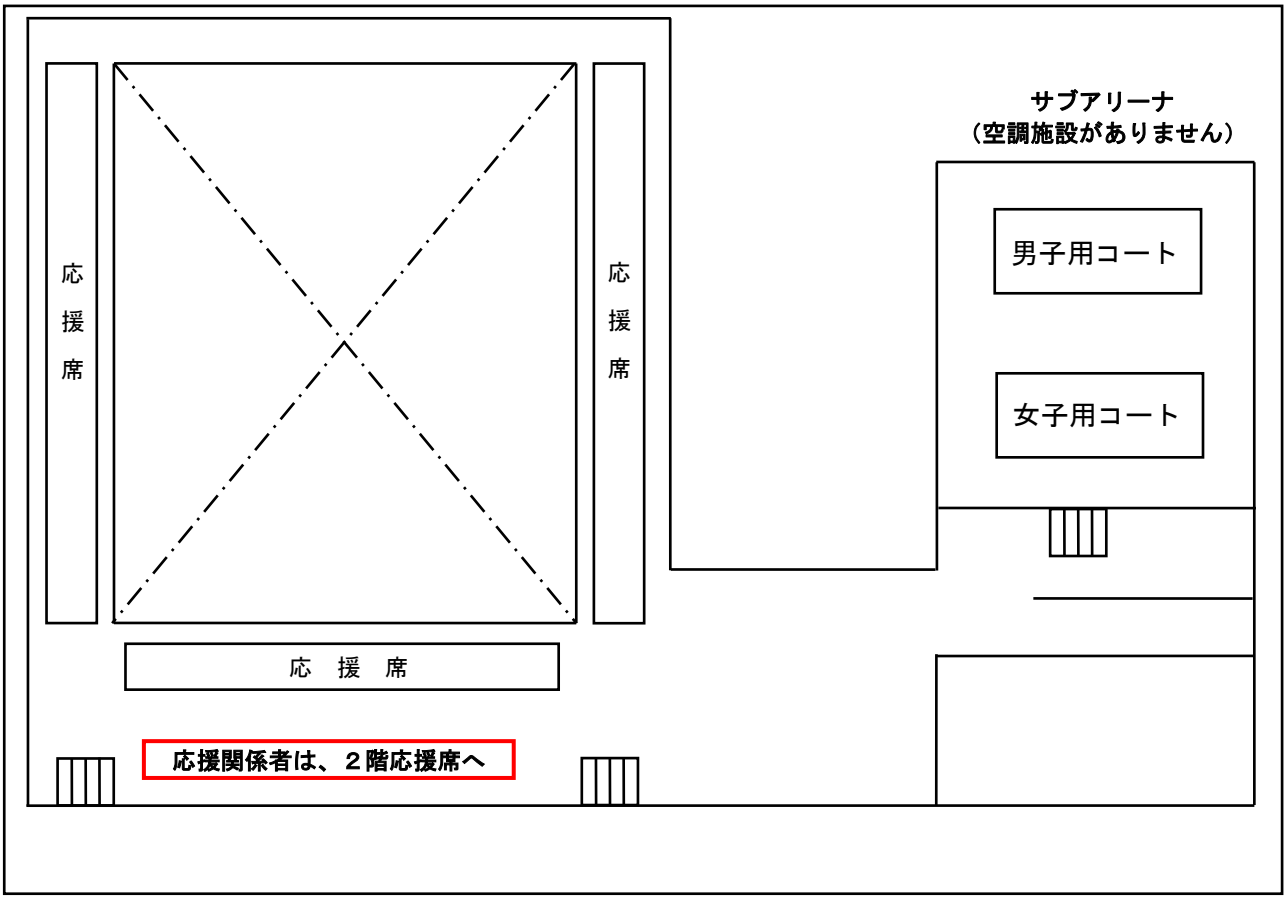
17　盗難には、十分注意すること。

≪ ⑤ 会場図 ≫

【１階】


Ａコート
Ｂコート
試合中の選手出入口
トレーニングルーム
格技室
受　付
事務室
大会議室
（大会本部）
（審判・役員控室）
（代表者会議会場）
正面玄関
館内への出入口（一か所）

【２階】


応援席
応援席
サブアリーナ
（空調施設がありません）
男子用コート
女子用コート
応　援　席
応援関係者は、２階応援席へ

≪　⑥　審判上の確認事項　≫

１　本大会は，２０２２年度（公財）日本バレーボール協会６人制競技規則および、２０２２年度（公財）日本中学校体育連盟バレーボール競技部の６人制ルールの取り扱いに準じて行う。リベロ・プレーヤーは、試合ごとに２名まで登録できる。
※　本年度よりルール改正が行われているので、各チーム確認しておくこと。

２　プログラム記載時刻は、**試合開始時刻**である。

３　設定時刻１１分前にプロトコールに入る。但し、前の試合が長くなった場合、次の試合開始時刻は５分の合同練習後、プロトコールに入る。早く終了した場合は、設定時間の１６分前から合同練習に入る。

４　合同練習におけるボールの使用はパス程度とする。

５　合同練習までの試合間の練習は、隣のコートにボールが飛び込まないような練習とする。（ヒットするレシーブなどはできるが、ネットは使用できない。）
※　決勝戦におけるコートの使用に関しては、別途連絡する。

６　トスの際、監督及びチームキャプテンは、記録用紙にサインする。
その際、監督がリベロナンバーだけを記入する。

７　公式練習は合同で行う場合は６分とし、単独で行う場合は３分ずつとする。

８　公式練習において、登録されていない選手が、防球フェンス的役割で他コートへのボール侵入を防ぐためにコート際へ立つことができる。ただし、監督やコーチへの球渡し（球出し）やエントリー選手とのパス相手は厳禁とする。（平成３０年度より）

９　各コートには、ウォーム・アップ・エリアを設ける。ただし、エリア内でのボールの使用は禁止する。

10　セット間はエンド・ライン後方のフリーゾーンでのボールの使用は認めるが、パス程度とする。

11　スポーツマンとしてふさわしくない行為はしないこと。（相手チームに向かってのガッツポーズ等）

12　いかなる場合でも、試合を遅らせることのないように注意すること。ボールがデッドになった時点での不必要なコート外への飛び出しは、ディレーリング・ゲームになる恐れがあるので行わないこと。また、コート上の選手がベンチのスタッフや交代競技者とも、タッチ（ハイタッチ）などは行わないこと。

13　全試合ワンボールシステムで試合を行うので、デッドになったボールは、速やかに次のサーバーに渡すこと。

14　タイムアウトは、ベンチから立ち上り、コールしながらオフィシャルハンドシグナルを明確に示して要求すること。

15　本大会は、ナンバーパドルを使用してのクイックサブスティチューションシステムを採用しない。

16　試合中のワイピングについては、原則としてコート中の選手が行う。（ワイピング用のタオルを各チームで準備しておく。）モップは、タイムアウト中とセット間及び審判が危険と判断した場合のみ使用する。

17　給水のためのタイムアウトの取り扱い及び団扇の使用については、別紙のとおりとする。

平成２８年８月２５日
（公財）日本中学校体育連盟バレーボール競技部

『リベロリプレイスメント』改正点について

（公財）日本中体連バレーボール競技部では、平成２９年度全国宮崎大会より一般と同様の『リベロリプレイスメント』ルールの適用を実施する。
改正点については、以下の通りである。

1　チームの構成

4.1.1　試合のために１チームは１２人までの選手と、さらに次のスタッフで構成することができる。

（解説）

１２名以下の場合は、０～２名のリベロ・プレーヤーを登録することができる。全国大会では、中体連は常に１２名以下の選手で構成される。

2　リベロリプレイスメント（入れ替え）

19.3.2.2　通常のリプレイスメントをする選手は、いずれのリベロとも入れ替わってコートに出入りすることができる。**アクティングリベロが入れ替わることができるのは、もともと入れ替わっていた選手またはセカンドリベロのみである。**

（解説）

リベロ・プレーヤーの交代方法で下記のパターンは認められるが、②の場合、★と☆が同時に行われることは認められない。

①	②	③	④
Ｎｏ.３→Ｌ１ Ｌ１→Ｌ２ Ｌ２→Ｎｏ.３	Ｎｏ.３→Ｌ１ ★Ｌ１→Ｎｏ.３ ☆Ｎｏ.４→Ｌ２ Ｌ２→Ｎｏ.４	Ｎｏ.３→Ｌ１ Ｌ１→Ｌ２ Ｌ２→Ｌ１ Ｌ１→Ｎｏ.３	*第２セット開始時 Ｎｏ.３→Ｌ２ Ｌ２→Ｌ１ Ｌ１→Ｎｏ.３

※Ｌ１、Ｌ２はリベロを示す

3　新しいリベロの再指名

19.4.1　リベロの負傷や病気、退場、失格によりプレーすることができなくなることがある。監督は、いかなる理由であってもリベロがプレーできなくなったことを宣言することができる。

19.4.2　リベロが１人の場合は、その時点(監督がリベロの続行不可能と宣言した時点)でコート上にいない(リベロと入れ替わった選手を除く)他の選手を、試合終了までリベロとして再指名することができる。しかし、続行不可能と宣言されたリベロは、その試合の残りはプレーすることができない。

19.4.3　リベロが２人の場合は、そのうちの１人がプレーできなくなっても、リベロ１人で試合することができる。

（解説）

平成 28 年度までの中体連の取り扱いでは、２人のリベロが何らかの事由により続行不可能と宣言された場合には、再指名を行うことができたが、今回の改正により、一般と同様に取り扱うこととした。

したがって、リベロが２人の場合は、２人のリベロの両者が続行不可能と宣言された場合のみ、再指名することができる。（リベロが１人の場合は、そのリベロが続行不可能と宣言された場合に再指名することができる。）

4　リベロに関わる動作

中体連におけるリベロプレーヤーシステム導入以来、何の変更もない。

このことは、今までと同じ「プレーの動作（19.3.1）」の取り扱いを意味する。

以上

２０１６年８月２５日
(公財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部

(公財)日本中体連における『リベロリプレイスメント』の変更についての付則

中体連では『リベロプレーヤーシステム』について 2004 年度に付則を作成し、全国規模で周知・徹底を図ってきました。しかし、2012 年度から高体連においても、一般のチーム同様の『リベロリプレイスメント』が採用されたことなども踏まえ、2017 年度の全国大会より一般のチーム同様の『リベロリプレイスメント』を採用することとしました。そこで、スムーズに移行ができるよう「付則」を見直し、資料として配付することにしました。

１．試合開始前の手続き

（１）記録用紙に関して

監督は、試合開始前、記録用紙に記載される選手の中からリベロを指名し記録員に伝え、記録員が記入した後、チェックしサインを記録用紙に記入する。
（リベロは、試合ごとに変更することができる。）

⟶ 記録員は、チーム登録として記載した１２名の選手名にしたがって、監督から指名されたリベロの名前を転記する。その際、１２名の選手名は**消さない。**

（２）リベロの服装に関して

リベロは、チームの他の選手と**対照的な色のユニフォーム**（ユニフォームのデザインは異なっていてよい）、または、ビブス（ゼッケンのようなもの：このビブスは、高さ１５ｃｍ以上の「Ｌ」の文字をつける）を着用しなければならない。
また、リベロが２名いる場合は、他のチームメンバーと同様に、２名が異なった番号を付けるか、『ビブス』の色を変える必要がある。

⟶ **①対照的なユニフォーム・・対照的とは「互いに対立する２つの要素がきわだつこと」であり、色の明るさに関係している。**

※例えば、正規の選手のユニフォームの袖が黒、胸背部が白とした場合、リベロのそれが、袖が白で胸背部が黒というものは対照的とは言えず、認められない。

⟶ ②チームのユニフォームに関して、認められる例。

※正規のメンバーを１番～１０番、リベロ２名が１１番と１２番とした場合。
１）正規のメンバーが白、リベロ２名が赤。
２）正規のメンバーが白、リベロ１１番が赤、リベロ１２番が紺。
３）正規のメンバーが白、リベロ１１番が赤のビブス、リベロ１２番が黄色のビブス。
４）正規のメンバーが白、リベロ１１番が赤、リベロ１２番が黄色のビブス。
＜できれば、１）か３）が望ましい。＞

⟶ ③リベロがビブスを使用する場合：公式練習が終了してから、ビブスを着用する。

（３）アシスタントスコアラー及び、リベロコントロールシートに関して

中体連では、アシスタントスコアラーを生徒役員が務める場合、２名の生徒役員で各チーム担当を決めリベロチェックを行うこととする。
なお、リベロコントロールシートは、生徒役員がチェックしやすい、中体連独自で作成したものを使用する。（日本中体連バレーボール競技部ホームページに掲載）

２．試合中

（１）適用される罰則について

リベロは、ラリーの完了から次のサービス許可のホイッスルの前までに交代しなければならない。（サービス許可のホイッスル後に交代することは、拒否されないが口頭で注意される。同一試合中に繰り返した場合は、遅延の制裁の対象となる。）

⟶ ①主審は、サービス許可のホイッスル前に、両チームの状況を正しく把握する必要がある。万が一、チームが５名あるいは７名になっている状況では、チームに正しいポジションになるように笛を用いて指導する。

⟶ ②サービス許可のホイッスル後、サービスの実行前にリベロの交代が行われた場合
⟹そのラリー終了後に、当該チームのゲームキャプテンを審判台の下に呼び、口頭で注意（「サービス許可のホイッスル後のリベロの交代は、遅延　行為となる。この試合で再び繰り返せば『遅延の制裁』を与えることになる」旨）を伝える。

⟶ ③サービス許可のホイッスル後、サービスの実行後にリベロの交代が行われた場合
⟹ポジションに関する反則を適用する。

（２）リベロの交代でよく起こる反則となるケースについて

リベロが交代してベンチに戻ったら、ワンラリー終了しないと、同じリベロは再び交代してコート内に入ることはできない。

⟶ ①ベンチに戻ったらとは･･･コートに入るときに代わった正規の競技者（リベロが２名の場合はもう１名のリベロとの交代もある）と再び交代して、コートを離れることを意味しており、実際にベンチに座ることを示すものではない。従って、サイドライン近くで立って待っている場合も含まれる。
　但し、代わるべき選手を間違ったときなどは、サービス許可のホイッスル前であればノーコントロールとする。また、中体連では、交替選手の誤りなどを事前に発見した場合、教育的指導のために『サービス許可のホイッスル前』に罰則を適用することなく訂正させる。インプレー後に発見された場合は、反則として処置する。

⟶ ②○：フロントプレーヤー/□：バックプレーヤー/リベロ：Ｌ１だけ

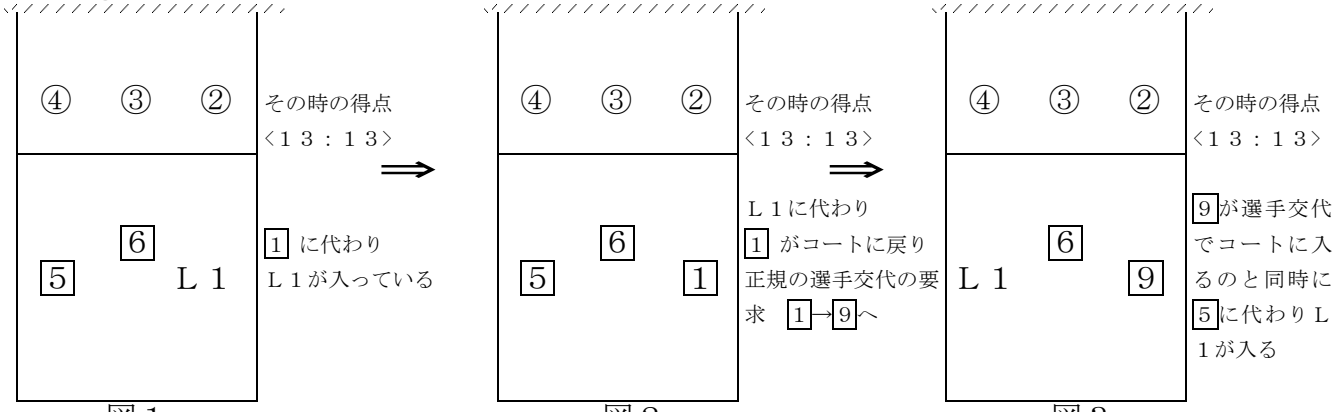


図１　　図２　　図３

＊ １３：１３の時点で、既に 1 に代わりリベロ１がコート内にいる。　（図１）
＊ 1 に代えて 9 をコート内に入れたいためにリベロ１と 1 を再び代える。　（図２）
＊ １３：１３の同一中断中に 1 に代えて 9 の選手交代を要求するのと同時に
　5 に代えてリベロ１がコート内に再び入る。　（図３）

☆＜処置の仕方＞　原則：リベロの反則はチームの責任である。

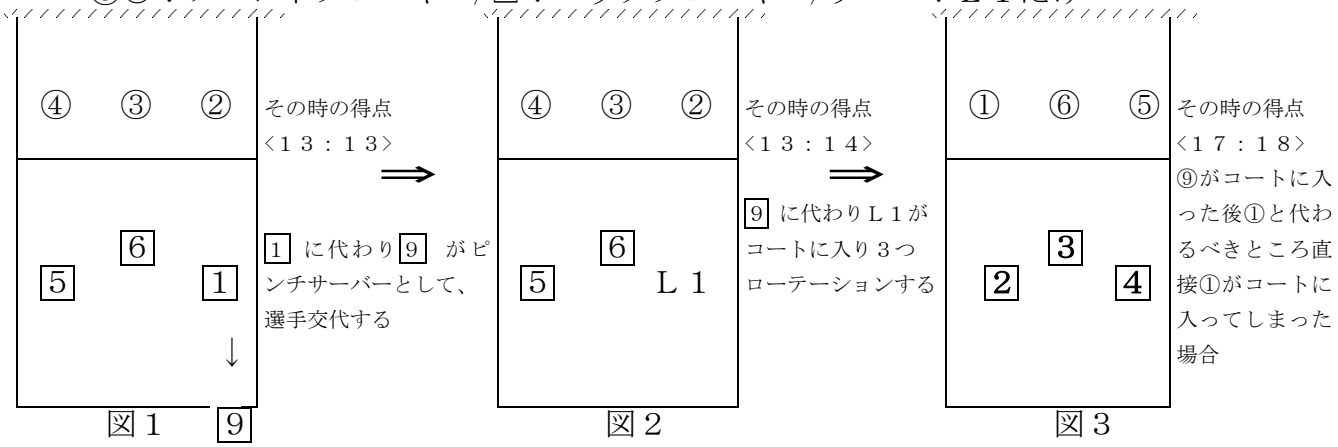
ⅰ)アシスタントスコアラーの指摘は、中体連では教育的指導のために『サービス許可のホイッスル前』に行い、罰則を適用することなく訂正させる。

ⅱ)アシスタントスコアラーのいない場合で、主副審のいずれかが発見した場合もⅰ)と同様に処置する。

ⅲ)審判団が発見できず、サービスの実行後に発覚した場合は、ポジションの反則として処置する。

ⅳ)審判団が発見できず、試合が続行した場合は、何の反則も適用しない。

⟶　③○：フロントプレーヤー/□：バックプレーヤー/リベロ：Ｌ１だけ



☆＜処置の仕方＞　原則：リベロの反則はチームの責任である。

ⅰ)アシスタントスコアラーの指摘は、中体連では教育的指導のために『サービス許可のホイッスル前』に行い、罰則を適用することなく訂正させる。

ⅱ)アシスタントスコアラーのいない場合で、主副審のいずれかが発見した場合もⅰ)と同様に処置する。

ⅲ)審判団が発見できず、サービスの実行後に発覚した場合は、ポジションの反則として処置する。

ⅳ)審判団が発見できず、ローテーションが繰り返され 9 がサーバーとなるべきところで、1 がサーバーに出てきて、記録用紙から発覚した場合は、規則７.７.１・２に則り、罰則を適用する。

（３）リベロの交代する場所について

リベロおよびリベロと交代する選手は、チームのベンチ前のアタックラインとエンドラインの間のサイドライン（“リプレイスメントゾーン”と名付けられている）からコートに出入りする。

⟶　①中体連では、１チームにつき最大限１２名までの登録ができる。その１２名のうちリベロとしての登録は０・１・２名のいずれかをチームが選択する権利を持っている。

これまでの取り扱いにおいては、リベロの交代に際して２組４名がリプレイスメントゾーンに並ぶことがあったが、今後の取り扱いでは認められない。

しかし、リベロ同士が交代することもあることなどから、チェックミスを防止するため、これまで同様、リベロと相対する競技者は、必ずサイドライン上で一旦立ち止まる(つま先をそろえる)ように指導を継続する。

⟶　②サイドライン上で一旦立ち止まらずに交代してしまう場合の処置

＊その場でやり直しをさせたりせず、間髪入れずに「止まる」ように指導する。

＊指導後も繰り返される場合でも、罰則は与えず指導を行う。

＊エンドラインから交代などの場合も指導する。

「給水のためのタイムアウト」の取り扱いについて

１　大会では、各セット（第３セットを含む）において、リードするチームが１３点に達したとき、３０秒間のためのタイムアウト（以下ＷＴＯ）が自動的に適応される。その際、副審が吹笛をし、コートを退くよう促し計時する。ハンドシグナルは示さない。

２　このＷＴＯは給水を目的とするものであり、その間選手はウォームアップエリア（付近）で給水を行う。またチームスタッフはベンチに座っているものとする。
（給水を行うか否かの判断は、選手本人の意思による。給水を行わなくても同エリア内に止まること。控えの選手も同様である。）

３　第３セットは、１３点でチェンジコートをした後に引き続きＷＴＯとなる。その際、主審側を通ってコートを移動したチームの最後尾の選手がベンチ側のサイドラインを通過した時点で、副審が吹笛をし、計時を始める。

４　正規の中断の要求やリベロプレイスメントよりもＷＴＯを優先する。正規の中断の要求やリベロプレイスメントを行う場合は、ＷＴＯの後にその手続きをする。

＊給水タイムは給水及び汗拭きを目的としているので、給水タイム中は次の点に注意すること。

プレーヤー　ウォームアップエリアにおいて給水することが出来る。モップをかけるためにコートへ入ることは許されるが、それ以外はウォームアップエリア付近にいることとする。ウォームアップエリアへは最短距離となるコースを通って移動する。

チームスタッフ　ベンチに着席すること。プレーヤーに対して戦術的な指示を出すことは出来ない。ただし、マネージャーは給水などの補助のため、ウォームアップエリアに行くことは認められるが、監督、コーチからの戦術的な伝言等をしてはならない。

＊ＷＴＯ後、選手がコートインしたら通常のＴＯの取り扱いと同様にする。

令和２年６月１７日

（公財）日本中学校体育連盟バレーボール競技部における「熱中症対策としての団扇使用」の取り扱いについて

（公財）日本中学校体育連盟バレーボール競技部

１　ベンチマナーの観点により、現在まで団扇の使用を禁止してきた経緯がある。しかし、現在熱中症対策が必要不可欠な課題である。そのため熱中症予防の観点から、（公財）日本中学校体育連盟バレーボール競技部が主催する大会で「熱中症対策としての団扇使用」を採用する場合、次のように取り扱うこととする。

①　使用は、セット間・タイムアウト・給水タイムアウトのみとする。
②　使用場所は、アップゾーンやベンチ周辺とする。
③　団扇の数には制限はないが、チームスタッフ及びリザーブ選手が保持することなく、ベンチもしくはアップゾーンで保管すること。
④　団扇の大きさには規定を設けないが、極端に大きなものは使用しない。
⑤　団扇にチームのロゴ等が記載されていても構わないが、装飾としての使用は認めない。
※①～⑤は、チームスタッフ及びリザーブ選手にも適応する。

各ブロック・各都道府県大会等で、開催要項に「給水のためのタイムアウト」を採用している場合において「団扇使用」を認めることとする。

以　上

全国大会参加チームのユニフォームの規定について

2016. 11. 26 改訂

公益財団法人日本中学校体育連盟バレーボール競技部

1　ユニフォーム

① ユニフォームとは、ジャージ（シャツ）とショーツ（パンツ）を指す。
競技者はジャージをショーツの中に入れて競技を行う。

② ユニフォームの色及びデザインは、チームで統一されなければならない。
また、ソックスはくるぶしが完全に隠れる長さであること。尚、ソックスについては、色及びデザインがチームで統一されていることが望ましい。

③ リベロプレーヤーはチームの他の競技者とはっきりと区別できる対照的な色（左右対称・上下対称・表裏対称等ではなく、はっきりと区別できるデザインであること）のユニフォーム（少なくともジャージ（シャツ）だけは）を着用するか、もしくはチームの他の競技者とはっきりと区別できる対照的な色のビブスを着用しなければならない。

2　競技者番号

①　対照的な色と明るさで、胸部中央と背部中央に明確に表示されなければならない。

② 競技者番号は１～２０番まで（１～１２番が望ましい。）とする。（やむえない場合１～９９番まで認める。）

③ 競技者番号のサイズは、胸部中央は高さ１０～１５㎝で字幅２㎝以上、背部中央は高さ１５～２０㎝で字幅２㎝以上とする。

④ ショーツ（パンツ）前面右下に、高さ４～６㎝、字幅１㎝以上の競技者番号を付けてもよいが、全員がそろっていなければならない。

3　チームキャプテン

チームキャプテンは、胸部中央の選手番号の下に、長さ８㎝、幅２㎝のマークを、ジャージ（シャツ）と異なった色で付けなければならない。

4　チームネーム

① ジャージ（シャツ）の胸部もしくは背部には、正式な学校名またはその略称をつけなければならない。略称は、明らかに正式な学校名がわかるものとする。特にナンバースクールや、学校名に東西南北のついている学校においては、市町村名が明確であること。

［略称の解釈］

（1）ナンバースクール・東西南北の中学校

チームネームに市町村名を使用しなければならない。

但し、「〇〇立」を省略しても構わない。

「例：ナンバースクール」		「例：東西南北」	
交野市立第三中学校（正式名称）	〇	大阪市立西中学校（正式名称）	〇
交野市立第三	〇	大阪市立西	〇
交野三・交野３・交野Ⅲ	〇	大阪西	〇
ＫＡＴＡＮＯ３・ＫＡＴＡＮＯⅢ	〇	ＯＳＡＫＡ ＷＥＳＴ	〇
交三・交３・交Ⅲ	×	大西・西・ＷＥＳＴ	×

（2）ナンバースクール・東西南北以外の中学校
チームネームに市町村を使用しなくてもよい。
但し、「〇〇立」を省略しても構わない。

［例］大阪市立山田中学校（正式名称）　〇
大阪市立山田　〇
山田中学校　〇
山田　〇
大阪山田　〇

② ジャージ（シャツ）に都道府県名を付ける場合は、左右どちらかの袖一カ所とする。
ジャージ（シャツ）に袖がない場合には、胸部左あるいは背面中央襟下に付けることとする。

5　その他の表示
上記２～４以外のものでユニフォームに付けられるものは、校章のみとする。ただし、胸部のみとする。
［特例］正式に申し入れがあり協議の上認められた北海道の地図の形のマークは、北海道チームのみ袖に付けることができる。ただし、「北海道」あるいは「HOKKAIDO」などの文字を入れるものとする。袖がない場合には、胸部左あるいは背面中央襟下に付けることとする。
※スポーツメーカーのロゴは例外、消す必要はない。

6　アンダーウェア等について
① アンダーウェアは個人あるいはチーム全員であっても、ユニフォームの袖や裾、首等からはみ出してはならない。ただし、プレーの動作によってユニフォームの下から見えてしまうことは故意に見せるものでない限り制限されない。
② 医療を目的としたサポーター類は、プレー上危険がある場合や、プレーに有利に働く場合を除いて、規制されない。
③ 明らかに色が違う腰に巻くサポーター・コルセット類はユニフォームの下に着用しなければならない。

7　ハチマキ
ハチマキやサポーター類は、ユニフォームに準ずるものとし、刺繍等の表記は学校名のみとする。

8　チーム役員の服装
① チーム役員は、ジャケットを着用するか、チームで統一された服装でなければならない。
② 監督がジャケットを着用し、その他のチーム役員が統一された服装であれば許可される。
③ 統一された服装であっても、短パン、ハーフパンツは許可されない。
④ マネージャーは生徒のため、①～③はマネージャーには適応されない。

9　合同チームのユニフォーム
① いずれか１チームのユニフォーム（リベロプレーヤーも含む）を使用する。
② 合同チームとしてのユニフォームの使用も認める。ただし、上記１～７を満たしていることを条件とする。（チームネームは、ジャージ（シャツ）の胸部もしくは背部には、合同チーム全ての正式な学校名またはその略称をつけなければならない。）

競技委員会資料

１　大会使用球に関して

○奇数年度（平成２９・３１年）男子モルテン V4M5000・女子ミカサ MVA400

○偶数年度（平成３０・３２年）女子モルテン V4M5000・男子ミカサ MVA400

２　監督会議出席の服装に関して

○平成２３年７月３日確認文書「全国中学校体育大会　全日本中学校バレーボール選手権大会「監督会議・決勝トーナメント抽選会に出席される監督の服装に関して」の文書の基づく（公財）日本中体連バレーボール競技部発行

※ビーチサンダルやランニングシャツ・短パン等での出席を控える（禁止とする）

確定版

２０２２年度（公財）日本中学校体育連盟バレーボール競技部における　６人制ルールの取り扱いについて

(公財)日本バレーボール協会審判規則委員会による『２０２２年度６人制ルールの取り扱い』に基づき、「(公財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部」において協議・検討を加え、「2022 年度の６人制ルールの取り扱い」を決定しました。

【１】　競技参加者の行為に関する事項

20.1　スポーツマンにふさわしい行為

20.1.1　競技参加者は、公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければいけない。

20.2　フェアプレー

20.2.1　競技参加者は、レフェリーだけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

（注）

１　ファーストレフェリーの判定に対するゲームキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やゲームキャプテン以外の選手が質問に来た場合は、拒否する。

２　競技参加者が、規則 20 に反した場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。

３　競技参加者が、レフェリーに向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。

【主にステージ１に該当するケース】

①ファーストレフェリーが最終判定を出した後にもレフェリーに不満を示す態度や言葉を発した場合。

②ファーストレフェリーがゲームキャプテンの質問に答えた後にも、さらに論争を長引かせるようにした場合。

③規則の適用や解釈でない内容の質問が、ゲームキャプテンから繰り返された場合。

④一度指導されているのに、再びゲームキャプテン以外の選手が判定に対して質問をした場合。

⑤ネット越しに相手の選手などに対して、馬鹿にしたり威嚇をしたりする行為があった場合。

【主にステージ２に該当するケース（直接イエローカードを出すケース)】

①ファーストレフェリー、セカンドレフェリーやラインジャッジの判定に対して執拗な抗議や威嚇的な態度を示した場合。

②ファーストレフェリー、セカンドレフェリーやラインジャッジの判定に対して、ベンチスタッフや控えの選手がベンチから飛び出して判定に異議を訴えた場合。

4　監督がセカンドレフェリーやスコアラーに話しかけることができるのは、リベロの再指名の時や得点が正しくない時などの声かけ程度のものであり、説明を求めたり、長く話しかけるようなことはできない。

5　試合終了後、監督・ファーストレフェリー・セカンドレフェリーはフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。

中体連でも同様に扱う。

※　軽度な不法な行為に対する警告は、その後の再発を防ぎ、中学生にフェアプレーの精神を身に付けさせるために、躊躇することなく、早い段階で、ステージ１またはステージ２を与え対処すべきである。

※　ただし、中学生は、上記のような対処を知らない場合があり、必要に応じて説明し、礼儀正しく行動するよう指導すること。

~~5　試合終了後、監督・ファーストレフェリー・セカンドレフェリーの握手については、これを奨励し、協力を求めていく。~~

【2】　プレーの動作に関する事項

9.2　ヒットの特性

9.2.1　ボールは、身体のどの部分で触れてもよい。

9.2.2　ボールをつかむこと、投げることは許されない。ボールはどの方向にはね返ってもよい。

9.3　ボールをプレーするときの反則

9.3.1　フォアヒット：チームが返球する前に、ボールを４回ヒットすること。

（規則 9.1、第 11 条⑲）

9.3.2　アシステッドヒット：選手が、競技エリア内でボールをヒットするため、チームメイトまたは構造物や物体からの助けを得ること。（規則 9.1.3）

9.3.3　キャッチ：ボールをつかむ、または投げること；この場合は、ボールはヒット後、接触している所から離れない。（規則 9.2.2、第 11 図⑰）

9.3.4　ダブルコンタクト：1 人の選手が連続してボールを 2 回ヒットすること、またはボールが 1 人の選手の身体のさまざまな部分に連続して触れること。

（規則 9.2.3、第 11 図⑱）

（注）

1　ボールは、クリアにヒットされなければならない。ボールをヒット後、接触している部分から離れないと判断された場合はキャッチの反則となる。

・腕が伴うようなプレーは明らかなヒットではない

2　指先（the pads of finger and thumb/指及び親指の腹）を用いたティップは許されるが、その際、手を伴ってはいけない。

３　ボールをつかむ、投げる．ボールの方向を変える、持ち上げる。このようなプレーはキャッチの反則となることがある。ファーストレフェリーは、ボールが接触している状況を的確に判定する。

（反則となりうるケースの例）

①　肘をまげてボールに接触し、その肘を完全に伸ばしてプレーした場合は、ボールを運ぶことになるため、キャッチである。

②　肩のラインの後ろでボールに接触しボールを運ぶプレーや、ボールを相手方ブロックに押しつけ方向を変えて押し出すプレーについては、ボールに手を伴って運ぶ時間が長いためキャッチの反則となる。

４　ブロックにおいても、基準は同様である。

中体連でも同様に扱う。

※　審判員の資質向上がバレーボールにおける競技力向上に資することを踏まえ、これまで同様、プレーを的確に判定するものであり、判定基準が厳しくなったものではないことから、各ブロックや都道府県における伝達では、指導者や選手に誤解を与えることのないよう、実技研修を取り入れるなど、配慮する必要がある。

14.3　相手空間内でのブロック

ブロックでは、相手チームのプレーを妨害しない限り、選手はネットを越えて手と腕を伸ばしてもよい。しかし、相手チームがアタックヒットを行う前に、ネットを越えてボールに接触することは許されない。

14.6　ブロックの反則

14.6.1　ブロッカーが相手チームのアタックヒット前に相手空間内にあるボールに触れたとき。（規則 14.3、第 11 図㉑）

（注）

１　相手空間内で、相手のアタックヒット前にブロッカーがボールに触れた場合が反則となる。

２　アタックヒットと同時にブロックの手がボールに触れても、反則ではない。

中体連でも同様に扱う。

９　ボールをプレーすること

各チームは、（規則 10.1.2 を除き）それぞれの競技エリアとフリープレー空間の中でプレーしなければならない。

しかし、ボールは自チーム側のフリーゾーン外とその延長線上にあるスコアラーズテーブル上から取り戻してもよい。

（注）

1　スコアラーズテーブルの後方は、自コートのフリーゾーン外側と同様に取り戻すことができる。

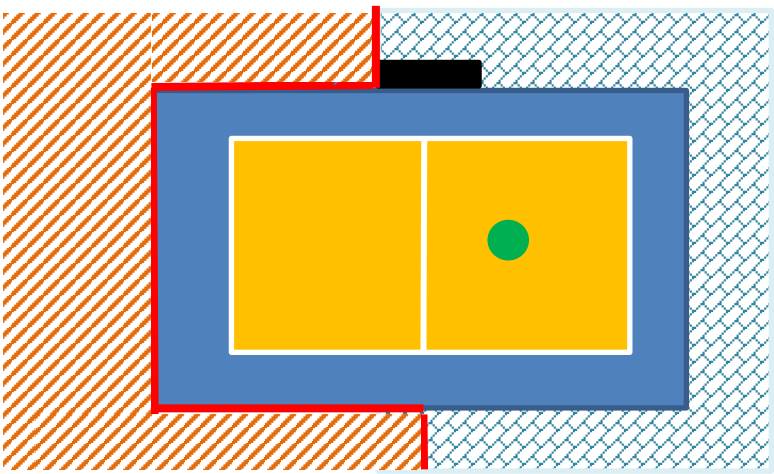
2　相手チームのフリーゾーン外側の垂直面より内側であれば、ボールを取り戻すことができる。

《図解》

フリーゾーン

チームが取り戻すことができないところ

チームがボールをプレーできるところ



中体連でも同様に扱う。

【3】　プレーの構造に関する事項

7.4　ポジション

サーバーによりボールが打たれた瞬間、両チームは（サーバーを除き）それぞれのコート内で、ローテーション順に位置していなければならない。

7.4.3　選手のポジションは、次のとおりコート面に接している両足の位置により決定され、コントロールされる。

7.4.3.1　各バックプレーヤーは、少なくとも片方の足の一部が対応するフロントプレーヤーの前の足と同じ位置か、センターラインより離れた位置にいなければならない。

7.4.3.2　ライト（レフト）サイドの各選手は、少なくとも片方の足の一部が同じ列の他の選手のライト（レフト）側から遠くにある足と同じ位置か、ライト（レフト）のサイドラインに近い位置にいなければならない。

（注）

1　サービスが打たれた瞬間に、コート面に接している足がない場合、最後にコート面に接触していた部分を基準とする。

2　バックプレーヤーの両足よりも、対応するフロントプレーヤーの両足が完全に後方に位置しなければ、反則とはならない。

３　ライト（レフト）サイドプレーヤーの両足よりも、同じ列のセンタープレーヤーの両足が完全に右（左）側に位置しなければ、反則とはならない。

４　したがって、下図①から③はいずれも反則とならない。

中体連でも同様に扱う。

7.3 スターティングラインアップ

7.3.4 ラインアップシートがセカンドレフェリーまたはスコアラーにいったん提出されたら、正規の選手交代をせずに、ラインアップを変更することは認められない。

（注）

両チームのラインアップをスコアラーがスコアーシートに記入し終えたら、チームはラインアップを訂正することはできない。提出した後でそのセットが始まる前に、スターティングラインアップの選手が負傷した場合は、監督がファーストレフェリーに申し出て、確認後変更することが可能である。

中体連でも同様に扱う。

【4】　中断に関する事項

15.2　正規の試合中断の連続

15.2.4　中断の要求を拒否され、ディレイワーニングが適用された場合は、同じ中断中に（すなわち、次のラリーが完了する前に）正規の中断の要求をすることはできない。

15.11　不当な要求

15.11.1　以下のような正規の試合中断の要求は、不当な要求である。

15.11.1.1　ラリー中、またはサービスのホイッスルと同時か、あるいはその後に要求すること。（規則 12.3）

15.11.1.2　要求する権利のないチームメンバーが要求すること。（規則 5.1.2.3、5.2.3.3）

15.11.1.3　インプレー中の選手の負傷、病気、退場、または失格の場合を除いて、同じチームが同じ中断中（次のラリーが完了する前）に２回目の選手交代を要求すること。（規則 15.2.2、15.2.3）

15.11.1.4　タイムアウトと選手交代の許容回数を超えて要求すること。（規則 15.1）

15.11.2　試合での１回目の不当な要求は、試合に影響を与えず、試合の遅延にならなければ拒否される。罰則の適用を受けることはないが、記録用紙には記録される。

（規則 16.1）

15.11.3　同じチームが試合中に、さらに不当な要求をした場合は遅延行為とみなされる。

（規則 16.1.4）

（注）

1　正規の試合中断の要求に関して、チームが不当な要求で拒否された後、その中断中に同じチームによる同じ試合中断の要求は認められないが、違う種類の中断の要求は認められる。ただし、15.11.1.1 の不当な要求については、サービスの実行が優先され、試合中断の要求はすべて認められない。

2　正規の試合中断の要求に関して、ディレイワーニングが適用された場合、同じチームによる試合中断の要求は、次のラリーが完了するまで認められない。（けがや病気による選手交代を除いて）

3　５回の選手交代を終えた後に、２人の交代選手が選手交代ゾーンに入ってきた場合、セカンドレフェリーは、監督に１組の選手交代だけが可能であることを伝え、どちらの選手交代を行うかを尋ねなければならない。そこに遅延がなければ、他の選手交代は不当な要求として拒否され、記録用紙に記録される。

4　２組の選手交代の要求があり、その中の１組は不法な選手交代であった。セカンドレフェリーは１組の選手交代を認め、不法な選手交代は拒否し、チームに遅延の罰則を与える。

5　サービスのホイッスルと同時か、あるいはその後の中断の要求は拒否され、ラリー終了後、記録用紙に不当な要求として記載する。もしもセカンドレフェリーがホイッスルした場合でも、特に試合を遅らせずに再開できる時には遅延とはせずにサービスのホイッスルを吹き直し、そのラリー終了後に不当な要求の処置を行う。

中体連でも同様に扱う。

15.8　退場または失格での選手交代

退場または失格となった選手には、直ちに正規の選手交代が行われなければならない。もしもこれができないときは、チームには例外的な選手交代をする権利がある。これもできない場合は、チームは不完全を宣告される。（規則 6.4.3、7.3.1、15.6、21.3.2、21.3.3）

（注）

1　退場を受けたチームメンバーは、直ちに正規または例外的な選手交代をして、そのセットが終了するまで競技場フロア内から出なければならないが、それ以外の処置は受けない。退場となった監督は、そのセットでは試合に介入することができず、そのセットが終了するまで競技場フロア内から出なければならない。

2　失格となったチームメンバーは、コート上にいる場合は直ちに正規または例外的な選手交代をして、試合終了まで競技場フロア内から出なければならないが、それ以外の処置は受けない。

中体連でも同様に扱う。

※　日本中体連においては、監督が退場・失格になった場合、試合を続けることはできない。
ただし、監督に代わり引率責任を負える者が会場内にいる場合は、試合を続けることができるが、退場・失格になった監督はその後その試合に復帰することはできない。

【5】　チームリーダーに関する事項

5.2　監督

5.2.1　監督は、試合を通して、コートの外からチームのプレーを指揮する。

5.2.3.4　他のチームメンバー同様に、コート上の選手に指示を与えてもよい。監督は、ウォームアップエリアが競技コントロールエリア内のコーナーにある場合は、試合を妨げたり、遅らせたりしなければ、自チームベンチ前のアタックラインの延長線から競技コントロールエリアのコーナーにあるウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で、立ちながらでも歩きながらでも指示を出すことができる。もしも、ウォームアップエリアがチームベンチの後方にある場合は、監督は、自チームのコートのアタックラインの延長線からエンドラインまで移動してもよいが、ラインジャッジの視界を遮ってはいけない。

（注）

監督が、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながら歩きながら指示を出している場合、ラインジャッジ（特にＬ２・L3）の判定の妨げにならないようにレフェリーが注意する。

ラリー終了後、レフェリーの判定に影響を及ぼす行為に対しては、直ちに罰則を適用する。

中体連では、部活動における適切な指導や競技場設定の観点から、全国大会の決勝と準決勝を除き、ラリー中はベンチに着席するようお願いをしているが、ラリー中やラリー後におけるレフェリーの判定に影響を及ぼす行為に対しては、中体連も同様に直ちに罰則を適用する。

【６】　リベロに関する事項

19.3　リベロに関する動作

19.3.2.9　不法なリベロリプレイスメントが次のラリーの開始前に発見された場合は、審判員より正しく直され、チームには遅延行為に対する罰則が適用される。

不法なリベロリプレイスメントがサービスヒットの後に発見された場合は、不法な選手交代と同じ処置がされる。

（注）

1　アシスタントスコアラーは、サービス許可のホイッスル後からサービスのヒットの前にブザーを鳴らし指摘し、チームには遅延の罰則が適用される。この時のリベロリプレイスメントは認められない。ただし、リベロがポジション４に残らなければいけない場合は、リベロリプレイスメントは認められる。

中体連でも同様に扱う。